

⑰

追想、先妣疾革、親戚咸集、先妣呼_レ兒名_一者再、
曰歌也歌也、先考乃呼_レ兒令_レ進、兒進而不_レ能_レ復言_一也、
嗟乎經_二二十年之久_一、緝想_二念此事_一、恍然猶_二其聲在_レ耳、
歌者緝之小字也、

天保辛丑七月二十三夜、燈下記、

読み

追想、先妣^{やまい}疾革まる、親戚咸^{みな}集る、先妣兒の名を呼ぶは再び、曰く歌也歌也と、先考乃ち兒を呼びて進むを令^{うなが}す、兒進みてもまた言う能わずなり、嗟乎、二十年之久しきを経ても、緝^{しんちゆう}このことを想念す。恍然として猶お其聲耳に在り、歌は緝之小字也、天保辛丑七月二十三夜、燈下記、

訳

想い出。母の病が進んだ。親戚はみな集まった。母が私の名を呼ぶ事再度。
歌や歌やと。父はすぐに私を呼んで進み出るようにうながした。私は進み出るも、言う事ができない。ああ、二十年の長い時を経て、私はこの事を思い出すと、何か心が乱れたようになって、その声は耳に残る。「歌」は、私の子どもの頃の呼び名だ。天保十二年七月二十三日（二十八歳）夜、燈下で記す。

言葉

疾_二シツ_一 やまい

革_二カク_一 あらたまる

咸_二カン_一 みな

再_二ふたたび_一 二度

乃_二スナワチ_一 そこでやつと

令_二ウナガシ_一

再_二サイ_一 ふたたび

想念_二心に考え思う_一

恍然_二コウゼン_一 ぼんやりしてよく見えない ところがうつとりして

小字_二ショウジ_一 幼名、小さいときの名

天保辛丑_二天保シンチュウ_一 天保12年28歳